

ふた復通信

～ふたばの日常、冬～

令和3年1月



令和3年1月発行
福島県ふたば復興事務所

- ・巻頭記事「フォトコンテスト入賞作品決定！」
- ・双葉郡トピックス（10月～12月）
「檜葉町に甘藷貯蔵庫が完成」
「夜の森の桜並木にイルミネーション」 他
- ・お知らせ ・双葉郡の町村内居住者

2021年、丑年がスタートしました！

コロナ禍で「密」は避けるべきと言われていますが、「ふた復通信」では双葉郡の旬な情報を「ギュウ」っと詰め込んで、皆様にお届けします。



【巻頭記事】「あなたとつながる、ふたば。」双葉郡フォトコンテスト入賞作品決定！

東日本大震災から10年目を迎える今、双葉郡を取り巻く環境は大きく変わり、その風景も日々変化しております。そこで、復興に向けて生まれ変わろうとする双葉郡の今と、人々の心に刻まれた、いつまでも忘れたくない双葉郡の昔をカタチに残し、多くの皆様に見ていただくことにより、この10年を振り返るとともに、震災前と変わらない双葉郡の魅力を再発見していただくため、「あなたとつながる、ふたば。」と題して、フォトコンテストを開催しました。

フォトコンテストは東日本大震災を境として「リアルタイムふたば（#今）部門」と「ふたばタイムカプセル（#昔）部門」の2部門に分け、昨年の9月23日から12月13日にかけて募集しましたが、全国各地から両部門合わせて600点超の応募をいただきました。

先日、多数ご応募いただいた作品の中から入賞作品を決めるための審査会を行いましたので、今回は、その結果についてご紹介します。



審査会は、1月14日にJヴィレッジで開催されました。審査員には、福島県内を中心に長く風景写真家として活動されている 須賀 武継 先生にお願いし、事務局とともに審査を行いました。

会場に並べられた写真を一枚一枚眺めていくと、その場に釘付けになってしまうような美しい風景、飾らないありのままの表情を見せてくれる人々、鮮やかに切り取られた往時の生活のひとコマ等々、双葉郡でしか見ることのできない決定的瞬間を捉えた力作ばかりでした。



一点一点、細かく見ていきます。

数点に絞り込んだ最終審査の様子。（一番右側が須賀先生です。）



数多くの優れた作品の中から、最終的に各部門において、「最優秀賞」1点、「特別賞」3点、「入選」6点を決定しました。

なお、須賀先生からは次のような講評をいただきました。

今回の「双葉郡フォトコンテスト」は、両部門とも力作ぞろいで、審査員一同選定に迷い、時間を押しての審査となりました。特に上位に入賞した作品は、「今」部門では、ジャンルも様々で趣向をこらし優劣付けがたかったこと。「昔」部門では、時代背景を感じさせる貴重な作品が多かったことをお伝えできればと思います。

現在は、誰でも手軽に写真を撮ることができる環境になっていますが、まずは写真の基本、「構図」や「ピント」「露出」「手ぶれ」等を押さえた上で、作品として「何を記録したいのか」「何を見る人に伝えたいか」、例えば「人物の表情なのか」「光や色の状態なのか」等を意識して撮影していただければ、良い作品を生み出すことができます。

今はデジタルの時代になり、結果を確認しながら納得いくまで作品を生み出すことができます。今回の賞に届かなかった方々も、今後とも引き続き写真を撮楽しんでいただき、素敵な作品を生み出していただければと思います。

栄えある「今」部門 最優秀賞に輝いたのは、奥地 太郎 さん（撮影場所：富岡町）。「昔」部門最優秀賞に輝いたのは、猪狩 光司 さん（撮影場所：大熊町）さんでした。おめでとうございます！



「今」部門最優秀賞：「満開」 奥地 太郎 さん
撮影場所：富岡町
コメント：桜満開の富岡町。訪れた人たちの笑顔も満開。



「昔」部門最優秀賞：「^{くまがわちごししまい}熊川稚児鹿舞」 猪狩 光司 さん
撮影場所：大熊町
コメント：カメラを始めて間もなくの頃、たまたま訪れたお祭りで撮影したもの（震災の数年前）。

今後、入賞作品については、多くの皆様に御覧いただけるよう、ホームページ等で公開するとともに、双葉郡内の公共施設やイベントなどでのパネル展示を予定しています。

そのスタートとして、3月にはJヴィレッジでの展示を予定しております。日程が決まり次第、ホームページ、Facebook 等でお知らせしますのでご期待ください。

※ フォトコンテストの開催に当たっては、「福島発電株式会社」様に協賛いただきました。

ふたばの旅のおともに！ 「双葉郡ぐるりんガイド」近日完成

双葉郡8町村の見どころをぎゅぎゅっと集めたガイドブックを作成中です。復興関連施設はもちろん、震災前から変わることのない双葉郡の名所・旧跡も多数紹介。まちあるきに使える各町村のイラストマップも掲載しました。

2月上旬以降、ふたば復興事務所のホームページに掲載するほか、県内の各施設等で配布開始予定です。『ぐるりんガイド』を片手に、ふたばの「いま」を感じる旅に出てみませんか？



【**楡葉町に国内最大級の甘藷（さつまいも）貯蔵庫が完成！（11月8日掲載 @楡葉町）**】

楡葉町前原地区に国内最大級の甘藷（さつまいも）貯蔵庫が完成しました。その名も「楡葉おいも熟成蔵」。10月14日、その完成記念セレモニーにお招きいただきました。

もともと楡葉町の農業は水稻栽培が中心でしたが、震災からの復興に向けて、農家の安定収入につながる新たな作物の栽培を模索する中で、お菓子など加工品などでの需要も多く収益性の高い甘藷栽培に着目したことが、この甘藷プロジェクトの始まりでした。



楡葉町では、甘藷の産地化を目指して、農場を確保するとともに、補助金等を活用し貯蔵庫等の施設を整備。農場・施設の運営には、全国で甘藷の栽培から商品製造・販売まで手掛ける白ハトグループが協力することとなり、現地法人「(株)福島しろはとファーム」が設立されました。完成した甘藷貯蔵施設は、甘藷を低温熟成させ、長期保存するための施設であり、約1,260tの甘藷が貯蔵可能です。

この日は、「(株)福島しろはとファーム」が、楡葉町とともに、地域の方々、行政関係者などを招いて、施設・設備をお披露目したほか、焼き芋、大学芋、芋けんぴなどの振る舞い、甘藷の収穫体験などが行われました。セレモニーでは、県外出身の農場スタッフ6人の挨拶もあり、甘藷づくりにかける熱い思いが伝わってきました。

今後、全国一の甘藷産地となるよう、皆さん、応援よろしくお願いたします！

（令和2年12月には、JA福島さくらふたば地区楡葉町甘藷生産部会が発足しました。）(U)



【**ひろの × アート（11月16日掲載 @広野町）**】



広野町民の憩いの場である二ツ沼総合公園には、令和元年度から始まったアートイベントの一環で、新たな名所が生まれています。令和元年度は同公園のシンボルであるオランダ風車に、今年度は公園内の体育館の壁面に、ストリートアーティストのRoamCouch（ロームカウチ）さんと公園来場者による素敵な壁画が誕生しました。令和3年度はどこにどんな絵が現れるのでしょうか。



また、11月13～14日には耳で楽しむアート、「ひろの JAZZ FEST」も開催されました。プロの若手ジャズ演奏家集団“Hamadori Jazz 6”によるワークショップとライブのイベントで、Jヴィレッジホールで行われたライブにお邪魔しましたが、コロナ禍で久しぶりの生演奏ということもあり、とても楽しかったです！（もちろん会場はコロナ対策万全でした。）



今後も、ぜひ多くの皆さんに“Hamadori Jazz 6”の音楽を楽しんでいただきたいと感じました。(M)

【双葉町の土産物・物産販売店（11月24日掲載 @双葉町）】

11月7日、双葉町産業交流センター（略称「F-BICC（エフビック）」）1階で、土産物や物産を販売する「サンプラザふたば」さんが営業を開始しました。

F-BICCは、震災後、双葉町では初めてとなる、フードコートやレストランといった食事処、貸会議室の提供や企業が入居する事務所等、様々な役割を担う複合施設です。（本誌秋号で特集した）東日本大震災・原子力災害伝承館のお隣にあります。



「サンプラザふたば」では、地元の物産や銘菓を数多く取り扱っていますが、中でも注目は、岐阜県の^{ねんし}撚糸製造・タオル販売業者である浅野撚糸さんと双葉町が共同開発した高品質のタオル「ダキシメテフタバ」です。他に販売しているお店は少なく、手に取って購入することができる貴重な場所となっています。もちろん双葉町のシンボル、「ふたばだるま」も並んでいます。

そのほかにも、浪江町のキャラクター「うけどん」のグッズや大塚相馬焼、大熊町から会津若松市に避難し小物づくりをしている女性ユニットが、町のキャラクター「おおちゃん・くうちゃん」をモデルとして作った会津木綿のクマのぬいぐるみ「あいくー」、広野町にあるふたば未来学園高校の生徒さんが製造・開発に携わった商品等、双葉郡ゆかりの商品が数多く並んでおり、地元への強い思いを感じました。（N）



【夜の森の桜並木にイルミネーション！（12月1日掲載 @富岡町）】

12月1日に富岡町のJR夜ノ森駅東口で開催された「YONOMORI まち灯り2020点灯式」に行ってきました。

筆者が到着した頃には、既に地域住民の方や報道陣で賑わっていました。12月に入り、とても寒かったのですが、飲食店の屋台もあり、コロナ禍ですっかりご無沙汰になっていた「お祭りの高揚感」を感じることができました。



桜並木の約150mの区間を彩る、色鮮やかなイルミネーションは大変きれいで、すっかり冷え切ってしまった身体と心が、灯りを見ているだけでほっこり温かくなりました。

夜の森地区は、令和2年3月に夜ノ森駅前の桜並木を含む道が避難指示解除となりました。コロナ禍により中止となってしまった桜まつりは、令和3年4月10・11日に開催予定とのこと。

地域の宝である夜の森の桜を100%楽しめる日が早く来ることを願わずにはいませんでした。（S）



ご存じのかたも多いかと思いますが、双葉郡の幹線道路を走行していると、多くの復興関連の工事車両の中に、しばしば「除去土壌」「中間貯蔵施設」等の文字を表示した大型ダンプトラックを見かけます。そこで、今回、改めて中間貯蔵施設で何が行われているのかを自分の目で確かめてみたいと思い、中間貯蔵施設見学会に参加してきました。

中間貯蔵施設とは、東京電力福島第一原子力発電所の事故後、福島県内の除染で発生した約1,400万 m^3 の土壌や廃棄物を、最終処分するまでの間、安全かつ集中的に貯蔵するための施設として、帰還困難区域内の双葉町（約5 km^2 ）及び大熊町（約11 km^2 ）にまたがる広大な敷地に、原子力発電所を囲むように設置されています。

県内の仮置場等から中間貯蔵施設への搬入は、2015年3月に始まりました。現在、搬入のピークを迎えており、見学会時点（令和2年10月30日）で、予定総量約1,400万 m^3 のうち約920万 m^3 の搬入を終え、2021年度中の搬入完了に向けて、1日約2,700台のトラックが稼働しているとのことでした。（2021年1月14日時点：搬入済量約1,021万 m^3 /予定総量約1,400万 m^3 →約73%完了）



見学会の現地視察では、中間貯蔵施設に隣接する中間貯蔵工事情報センターを発着点とし、マイクロバスで敷地内の主要な箇所を回ります。約16 km^2 の広大な敷地内は、複数の企業がグループを組んだ共同企業体（JV）ごとの「工区」に分けられ、それぞれ「搬入・受入」→「分別・減容化」→「貯蔵施設での貯蔵」の作業工程ごとに細分化された施設において、厳密な安全管理体制の下、土壌・焼却灰等の処理が行われていました。なお、減容化とは、一定の放射性セシウム濃度を超えて持ち込まれた焼却灰等の容積をさらに減らすために溶融処理することであり、貯蔵量を減らすための作業です。

車窓から目の当たりにしたのは、震災当時の生活の痕跡を残したまま倒壊した家屋や公民館。そして、元の景色を想像できないほどに掘り返された土壌貯蔵施設、巨大で無機質なベルトコンベア、保管場に仮置されたフレコンバッグの山などであり、非日常的で荒涼とした光景が広がっていました。我々の身近なところからフレコンバッグが消えたとしても、原発事故は終わりではなく、現在進行形であるということを改めて思い知らされました。



また、これまで幹線道路で目にしてきた大型ダンプトラックも、そこには、毎日、県内各地の仮置場から除去土壌等を運び、施設に着いてからも待機場の長蛇の列で搬入・分別を待つトラック運転手の皆さんが携わっているということを再認識するとともに、そのほかにも、分別・減容化、貯蔵施設への貯蔵など様々な工程において、日々、数多くのスタッフが携わっているということを改めて知ることができました。

そしてなにより、（見学会の最後に案内人のかたも言っていました）この中間貯蔵施設は、県内各地からの除去土壌等の受入れのために大切な土地を提供いただいた双葉町及び大熊町の皆様の協力が無ければあり得なかったという事実を忘れてはなりません。



ここに保管された除去土壌等は、法律において、中間貯蔵開始後30年以内つまり2045年（令和27年）3月までには、福島県外で最終処分を完了することが国の責務とされています。まだ解決までの道程は長いですが、全国の多くの皆様に、この双葉郡が抱える課題について、関心を持ち続けていただきたいと思います。（U）

【こんにちは新駅舎、ありがとう旧駅舎（竜田駅）（12月8日掲載 @檜葉町）】

檜葉町の JR 竜田駅は新しく橋上駅として建て替えられ、令和2年12月1日から供用開始されました。駅の東口にはロータリーが整備され、町内観光に利用できる電動アシスト付きシェアサイクルも配備されています。



駅の東西を結ぶ自由通路からは太平洋が一望でき、壁面には、鮭やユズ、ヤマユリなど、檜葉町をイメージした装飾がドットで描かれ、とても近未来的で、これからの町の発展を予感させるような立派な駅舎に生まれ変わりました！



一方、これまで竜田駅の表玄関であった西口の旧駅舎は12月下旬に惜しまれつつも解体されましたが、筆者が訪れた12月上旬は、ちょうど「思い出展示」が行われており、明治42年の開業以来の懐かしい写真や、旧駅舎の模型、周辺住宅街の復元模型、訪れた皆さんからの思い出のエピソードが飾られており、人生の節目から日常の一コマまで、様々な思い出の詰まった駅舎であることが伝わってきました。

旧駅舎の看板など一部の部材は、今後の竜田駅西側の整備に再利用される予定とのこと。新駅舎とともに新たな思い出を紡いでいってほしいものです。(M)

【大熊町で出会いました（12月10日掲載 @大熊町）】



晩秋の大熊町でとても素敵な出会いがありました。それは、大川原地区にお住まいの佐藤右吉さんのお宅にある「このてひばのひーちゃん」です！

何とも言えない愛らしさに、一目で大ファンになりました。

「ひーちゃんに会ってみたい！」という方は、「おおくままちづくり公社」が発行している「大熊町大川原マップ」を参考にしてください。(S)

●大熊町大川原マップ掲載ページ URL ↓

<http://okuma-machizukuri.blogspot.com/2020/04/40.html>

※ ひーちゃんは道路沿いに立っていますが、個人宅の敷地内ですので、見学の際には、ご迷惑にならないようお気を付けください。



【見える化セミナー in ひろの（12月21日掲載 @広野町）】

イノベって、何？

突然ですが、皆さん、「福島イノベーション・コースト構想」って知ってますか？「東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するために、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクト」のことで、正直、そう言われても具体的なイメージがわからないのではないのでしょうか。12月3日、福島イノベーション・コースト構想推進機構主催の「見える化セミナー in ひろの」に参加してきました。



見える化セミナーは、「福島イノベーション・コースト構想」の取組をより身近に感じてもらうために、同構想の推進機構が双葉郡各町村との共催により開催しており、この日は広野町で行われました。

イノベ構想の主要プロジェクトは、「廃炉」「ロボット・ドローン」「エネルギー・環境・リサイクル」「農林水産業」「医療関連」「航空宇宙」と多岐にわたりますが、その先端研究の成果は、ICTを活用した農業モデルを確立することで、農家の皆さんの負担軽減に繋がるなど、生活の身近なところに還元されます。また、それらの産業集積を下支えるのは地域の企業であり、構想を支える地元の人材の育成が欠かせません。

この日のセミナーでは、震災後、開催地の広野町に開校した県立ふたば未来学園中学校・高等学校の柳沼英樹校長による基調講演や、3月に全線再開となった常磐線を管轄するJR東日本水戸支社の戸田憲介氏による基調講演が行われたほか、地域おこし協力隊として県外での活動実績も持つ大場美奈氏、いわき市のワンダーファームにおいてトマト栽培による震災復興・地域振興に取り組む元木寛氏をゲストに迎えた交流人口拡大に向けてのトークセッションも行われ、地域づくり実践者の体験談も交えつつ、イノベ構想の舞台としての双葉地域のポテンシャルについて、示唆に富んだ話を伺うことができました。

柳沼校長の講演の中では、ふたば未来学園で行っている「未来創造学」において、生徒たちは地域との繋がりの中で課題を解決する力や人と協働する実践力を身につけるとのこと。双葉地域は被災地ならではの課題も多いですが、逆に、様々な学びと可能性（夢）が秘められています。イノベ構想もその夢の一つと捉え、若い人達に積極的に関わって（学んで、楽しんで）もらえればと思います。（U）



【ウィンターイルミネーションならは2020点灯式（12月23日掲載 @榎葉町）】

12月18日に道の駅ならはで開催された「ウィンターイルミネーションならは2020」の点灯式に行ってきました。

会場では、名物「マミーすいとん」や「柚子茶」の振る舞いがあったほか、町の新名物である「おいも（焼き芋）」もいただくことができました。「おいも」はね



っとりと甘く、濃厚な食感で大変おいしかったです！どれもあっという間にお腹に入り、大満足でした。久しぶりの再会を喜び合う住民の姿も見られ、コロナ禍の中、人が集う場の大切さを改めて認識しました（※会場は体温測定器や消毒スペースがあるなど、十分な感染症対策が行われていました）。

そして、肝心のイルミネーションですが、「柚子」や「木戸川の鮭」、「おいも」など榎葉町の名物が美しくデザインされており、大変感動しました！訪れた人たちは光の中を散策しながら、思い思いに写真撮影をするなど、特別な時間を満喫されているようでした。（S）



お知らせ

【イベント情報】

新型コロナウイルスの感染状況等により変更となる可能性もありますので、イベントの詳細及び直近の情報については、各イベント主催者のホームページ等をご確認ください。

○ 2021年4月スタート！Jヴィレッジサッカースクール プレオープン体験練習会 (主催：株式会社Jヴィレッジ)

4月からJヴィレッジでサッカースクールをスタートするにあたり、体験練習会を開催しています。初心者でも女の子でもサッカーを通して楽しく運動できるような活動していますので、興味のある方はお気軽にお問い合わせください。

開催予定日：2月7日(日)、14日(日)、27日(土)

3月7日(日)、14日(日)、20日(土)

対象：幼児年中～年長、小学1年～小学5年

問合せ先：(株)Jヴィレッジ TEL：0240-26-0111 / MAIL：mukouyama.f@j-village.jp



○ 第5回榎葉市民大学公開講座「化石は語る…」

(大学等の「復興知」を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業)

(主催：榎葉町)

東京大学総合研究博物館 佐々木猛智准教授による講演。

「様々な化石から生物の進化の謎に迫る」という内容の公開講座です。

開催日時：2月14日(日) 13:30 - 15:00

開催場所：榎葉町コミュニティセンター(大会議室)

定員15名 ※電話での事前申し込みが必要です。

申込先：榎葉町教育総務課 TEL：0240-25-2492(生涯学習係)



○ 「ほんとの空が戻る日まで ～東日本大震災発生から10年-これまでの取組みと今後～」

3月11日から福島大学ホームページ「震災10年特設ページ」にて配信予定

(主催：福島大学うつくしまふくしま未来支援センター)

東日本大震災発生から10年を迎えるにあたり、被災地域の復興に向けてのこれまでの取組みを伝えるとともに、現在直面している課題及び今後の在り方について考えるシンポジウムです。(ホームページ上での録画配信となります。)

問合せ先：福島大学うつくしまふくしま未来支援センター

TEL：024-504-2865 / MAIL：fure@adb.fukushima-u.ac.jp



<双葉郡の町村内居住率>

双葉郡8町村がホームページや広報誌で公表している住民基本台帳人口、町村内居住者数に基づき算出しました。(新規転入者を含み、滞在者推計を除く。)復興状況を知る一つの目安としてご覧ください。(「町村内居住率=町村内居住者数/住民基本台帳人口」)

	住基人口	居住者数	居住率
広野町	4,723	4,237	89.7%
榎葉町	6,764	4,030	59.6%
富岡町	12,431	1,567	12.6%
川内村	2,527	2,055	81.3%
大熊町	10,273	281	2.7%
双葉町	5,798	0	0.0%
浪江町	16,748	1,529	9.1%
葛尾村	1,380	425	30.8%
計	60,644	14,124	23.3%

双葉郡全体の町村内居住率

(令和2年11月末時点)

23.3%

↑

(令和2年8月末時点)

22.9%

<編集後記>

去年は、新型コロナに振り回された一年でした。自粛は「モウ」こりこりといった気持ちもあるかと思いますが、今年は五年ですので「赤べこ」のごとく粘り強く、収束→終息を信じて頑張りましょう！(でも、たまの息抜き&健康維持のためなら「ぐるりんガイド」(2頁参照)を片手にプチ散歩がお勧めです。)

富岡町の日本酒「富岡魂」
モウ美味しいなー
(とみおかプラスで販売中！)



☆ 皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。

☆ 是非、双葉郡内のイベント情報や、グルメ、観光、素敵な景観などおもしろ情報をお寄せください。

〒979-1111 福島県双葉郡富岡町小浜553-2 福島県富岡合同庁舎

福島県ふたば復興事務所

TEL：0240-23-6974 FAX：0240-25-8372

～ ホームページ、Facebookもやってます！ →「ふたば復興事務所」で検索！！